

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 11 No.8 2009年4月30日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

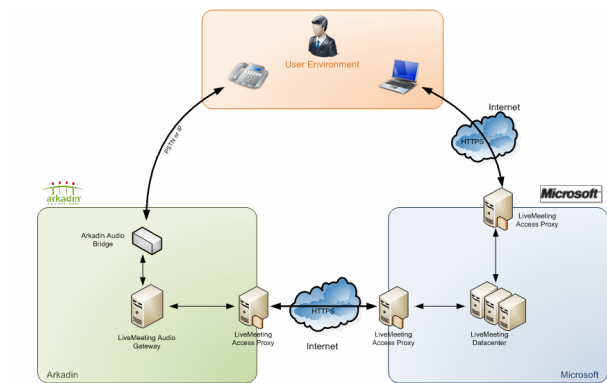
Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

アルカディン・ジャパン、マイクロソフトのWeb会議サービス LiveMeeting の提供開始

アルカディン・ジャパン株式会社(東京都港区)は、Web会議サービス「Arkadin Live Meeting(アルカディンライブミーティング)サービス」の提供を発表、正式なサービス開始は、5月1日からの予定。

この Arkadin LiveMeeting サービスは、マイクロソフトの「LiveMeeting(ライブミーティング)」を、同社の電話会議サービス「Arkadin Anytime(アルカディンエニータイム)」に統合することで提供される。この統合とは、ひとつのオンライン・ミーティングの中でデータ共有部分を Web 会議が、そして音声部分を電話会議がそれぞれ受け持ち、両者がお互い連動する形を意味する。



アルカディンとマイクロソフトとのシステム連携

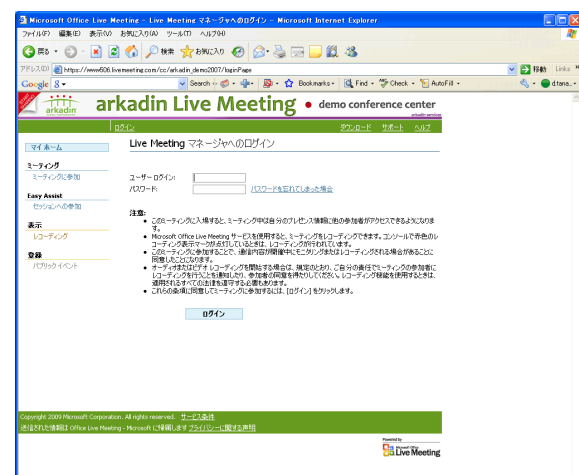
この連動のポイントは、ユーザにとって参加者の接続状況の確認や会議の操作をひとつの画面にアイコン表示することで操作をより簡便にする点だ。たとえば、会議の参加者とその参加者の接続状況を LiveMeeting 画面上のアイコンで視覚的に確認できるほか、電話会議の機能である、ミュート(消音)、会議ロックなどを Web 会議の画面上(つまり PC マウス)で操作が行えるといった点だ。

もちろんひとつの会議を行う際に、システム連動していな

い別々の Web 会議サービスと電話会議サービスを同時に使って行うユーザもいる。つまり、両者をパラレルで同時利用する形だ。しかし、システム的には連動していないため、参加者の接続状況の確認や会議の操作は、Web 会議と電話会議と別々の操作を行う必要がある。

たとえば、音声だけの参加者は電話会議だけに接続する形になるが、その状況は Web 会議の参加者一覧には表示されない。そのため、電話会議システム側の操作で確認しなければならなくなる。

「両方が連動していない場合ユーザの操作の手間が増える。しかし今回のように連動させることでユーザのメリットは大きく、それだけ会議に集中でき、議論の生産性は向上するのではないかと考える。」(アルカディン・ジャパン)



Arkadin Live Meeting ログイン画面

さて、Arkadin Live Meeting で会議を行う際には、まずアルカディンのウェブサイトからログインする。予約画面では日時や参加者の登録設定、1回会議か定期会議、会議のレコーディング(Web 会議、電話会議、ウェブカメラの映像)、レポート機能、メール通知などの設定が行えるようになってい。ちなみに、先ほどの電話会議と Web 会議との連動は設定により ON/OFF が可能だ。

メール通知は、会議の予約が設定されたことを、参加者にメールで自動通知する機能だ。それを受信した参加者は、メールの本文に表示される会議用のウェブ URL をクリックすることで会議室にアクセスする。

「会議の予約設定は細かく行えるのが特長だ。また、LiveMeeting 会議では、最大 1,250 名までの利用に対応しているため大型の用途にも向いている。」(アルカディン・ジャパン)

はじめて会議室に入室する場合、LiveMeeting 用のプラグインソフトウェアが参加者の PC に自動でインストールされる。「プラグインソフトウェアは自動で行われ、インストールは手間がかからず、所要時間は数分で、負担は少ない。」(アルカディン・ジャパン)



参加者の会議室画面 - 講演者の顔と発表資料が表示されている。

そしてログインが完了し会議室に入室すると、LiveMeeting が PC 画面全面に表示される。

続いて電話番号と PIN(暗証番号)を示したダイアログが画面にポップアップする。そこに参加者が、自分の電話機の番号を入力し、自分の電話機にダイヤルアウトすることを指定すると、アルカディンから指定の電話機にコールされ、電話会議システムに接続することができる。

そうすると、電話会議サービスに接続したことを意味する音声アナウンスが流れ、そこで参加者が PIN(暗証番号)を電話機のプッシュボタンで入力することによって、会議室に接続する。

これで、参加者が、データ共有部分の Web 会議と音声部分の電話会議の両方に、系統的に接続したことになり、オンライン・ミーティングが開始する。

その接続の状況は、Web 会議の画面の参加者一覧リストにリアルタイム把握できる。参加者が接続する毎にアイコンがひとつずつ増えていくのが見えるからだ。また、参加者が Web 会議システムに接続したか、また音声会議にも接続したかもアイコンでわかるようになっている。

その他 LiveMeeting の画面には、共有されている資料の表示(アプリケーション共有やデスクトップ共有)、ウェブカメラの映像も表示され、それらが参加者全員に配信される。加えて、投票機能やムード機能など、参加者が講演者へ簡単にフィードバックする便利な機能も提供されている。ムード機能は、たとえば、講演者の講演スピードが速いとか調度よいとか遅いといった意思表示をリアルタイムに行えるものだ。ちなみにフィードバックさせたい項目は任意に設定できる。

会議後は、録音アーカイブリストに記録させることができる。その場合、後日参照したり、CSV ファイルに出力したりすることも可能だ。

「当社の電話会議、Web 会議サービスは、オンライン・ミーティングからトレーニング、そしてイベント(オンラインセミナー)など幅広くビジネスのミーティングニーズに柔軟に対応出来る。会社からだけでなく自宅でも出張先からでも低コストで便利に使える。それに加え、導入時のコンサルティングから、トレーニング、カスタマーサポート、そしてビルディングサービスまでの包括的なサービスを、ワールドワイドにワンストップで提供しているのも当社の強みだ。」(アルカディン・ジャパン)

アルカディン・ジャパンは、フランスの電話会議サービス提供事業者アルカディン(Arkadin)社の日本法人。仏本社は、2001 年に設立され、現在日本を含め世界 22 カ国 33 のオフィス(社員数は、全体で約 540 名)で展開する。年間 30 億サービス提供分が利用されているという。

前述の予約なしセルフ型電話会議サービス

「ArkadinAnytime」の他、オペレータ付きのイベント型電話会議サービス「ArkadinEvent(アルカディンイベント)」、Web会議サービス「ArkadinAnywhere(アルカディンエニウエア)」なども提供している。

NEC、NGNに対応した多地点間HDテレビ会議システムの出荷開始



NC1000-MV HDTV 会議端末



※上図は、ルータとして、NTT東日本およびNTT西日本製回線終端装置内蔵のひかり電話対応ルータご利用の場合の代表的な接続例です。

HD-TV 会議システム (NGN 利用) の構成例

NEC は、NGN に対応した多地点間 HD720p) テレビ会議システム「NC-1000-MV」の出荷を開始した。(4月6日)

NC-1000-MV は、H.264 を採用し HD 画質に対応。HD 画質であっても 2.6Mbps 以下の帯域で HD 品質のテレビ会議が行える。また、NTT 東日本および NTT 西日本の「フレッツ光ネクスト」の「ひかり電話」の料金体系で手軽に利用できる今回のような「多点間HDテレビ会議システム」製品は業界

初という。さらに使いやすさについても配慮しており、IP アドレスなどのネットワーク知識を特に必要とせず、電話をかける操作だけで簡単にテレビ会議を始めることができると同社では説明する。

今回の開発の背景としては、NEC では以下のように説明する。

高画質を実現するには各拠点間を広帯域専用線によって VPN 接続する必要があり高コストになりやすい、安価なインターネットと VPN を組み合わせてもベストエフォート型サービスの性質上、映像品質の安定した多地点間 HD テレビ会議システムの構築は困難であるなどの課題があったという。

しかし、低価格で高画質な HD テレビ会議システムは、NGN の特長を最大限に活かしたキラーアプリとして注目されるとともに、企業における出張削減による費用削減効果

や CO2 削減を可能とする環境配慮型製品のひとつとしても期待されていることから、同社ではこういったニーズに応える製品として出荷することにした。今後 3 年間で 1 万システムの販売を見込む。

メーカー希望小売価格は、HDTV 会議端末

(NC1900-MV-CH) が 710,000 円から、MCU 装置 (NC1400-MV-MC) が 455 万円からとなっている。

NC-1000-MV は、主に企業向けに販売する予定。テレビ会議システムとしてだけでなく、ビデオコンタクトセンタ、遠隔教育、交流授業、遠隔カウンセリング、遠隔医療相談などさまざまな分野にも応用できる製品と同社では期待する。

今後は、フル HD(1080i)対応、H.323 対応、携帯電話などとの接続対応を予定している。

*関連記事:製品化発表 Vol.10 No.12 2008/6/15 3p-4p

NEC 情報システムズ、遠隔コミュニケーション支援ソフトウェアの新製品を発表



ConforMeeting/c 画面

株式会社 NEC 情報システムズ(東京都港区)は、遠隔コミュニケーション支援ソフトウェアの新製品「ConforMeeting/c(コンフォーミーティング・シー)」の販売を開始した。(3月30日)

ConforMeeting/c は、遠隔地で手軽に資料共有し双方向議論を可能とするペーパーレス会議ソフトウェア。

また ConforMeeting/c を使用することのメリットとしては、(1)ネットワーク負荷の少ないデータ処理方式で、離れた場所にいる複数メンバが資料を手元のPCで共有し、手書きやテキストで書き込んだ情報をリアルタイムに高精細な画面表示で表示することができる。(2)マイクロソフト社の Active Directory との連携によって、従来製品で必要であった会議日程や参加メンバの事前登録が不要なため、誰でもすぐに会議を開催できる。(3)電子データへの入力・コピー・移動は、ホワイトボードや紙への手書きと同様の自由度がある。

一方、このシステムの適用例としては、複数拠点間での遠隔会議、遠隔地での資料レビュー、テレワーク(在宅勤務)時の資料共有、居室などの臨時会議などがあると同社では説明する。

NEC 情報システムズでは、ペーパーレス役員会議システム「ConforMeeting/e」の開発を通して蓄積してきた技術やノウハウを生かし、ビジネスの現場で新しい価値を創造する人材を強力に支援するツールとして今回の製品を開発した。

ConforMeeting/e の希望小売価格(税抜)は、15万円(同時参加者数:5、使用期間1年限定版)からを予定している。販売については、今後3年間で200セット、1億5000万円の売上を目標としている。

ConforMeeting/e は、4月14日からNECブロードバンドソリューションセンター(品川)、また5月からNECブロードバンドソリューションセンター関西において展示予定。

*関連記事: Vol.9 No.17 2007/9/30 3p-5p

ポリコムジャパンの RMX 2000、1080p/720p のHD解像度、パケットロス対応機能、映像品質改善、ポート数倍増などに対応



Polycom RMX 2000

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、同社の多地点会議プラットフォームの新バージョン「Polycom RMX 2000 V4.0」を発表した。(3月23日)

Polycom RMX 2000 V4.0 の特長は以下の通り。

(1)SD から 1080p HDまでの多数の解像度をサポート。HD(ハイデフィニション)については、1080p30 フレーム/秒、720p60 フレーム/秒、720p30 フレーム/秒に対応。

(2)「Lost Packet Recovery(ロスト・パケット・リカバリー)」に対応。「頻繁にパケットロスが発生する環境でも IP ネットワーク経由のビデオ会議の品質を向上する。」(ポリコムジャパン)

(3)「Video Clarity(ビデオ・クラリティ)」の搭載。低解像度や低帯域で低速なビデオ会議において映像品質を補正する機能。たとえば、CIF 解像度(352×288)の映像を、4CIF(704×576、480p)に向上させたり、SD 解像度を HD(720p)解像度に向上させたりすることができる。

(4)「Fixed Resource Capacity(フィクスト・リソース・キャパシティ)」機能の搭載。RMX 2000 のリソースを固定して割り当てる機能。たとえば、HD対応のビデオ会議端末を特定の帯域や解像度で行う場合、RMX 2000 のリソース使用をその用途に合わせた構成に固定設定するもの。そうすることで RMX のリソースの消費を効率化する効果がある。ちなみにこの機能は、設定する/しないの選択が可能。

(5)従来のバージョンの2倍のポート数に増加。720p30 フレーム/秒の解像度で最大 40 地点、1080p/30 フレーム/秒または 720p60 フレーム/秒の解像度で最大 20 地点、SD 画質(4CIF/480p)で 60 拠点をサポート。さらに、解像度が混在する環境においては、160 拠点、あるいは、音声会議では最大 800 拠点まで対応する。

(5)Polycom RMX 2000 は、「Polycom DMA 7000」と統合することで最大 10 台までの RMX 2000 サーバを単一のリソースプールとして連携することが可能。そうすることで、複数の RMX 2000 を単一でシームレスなソリューションとして接続し、ビデオ会議の管理と負荷分散が行える。Polycom DMA 7000 は、ネットワーク上に分散設置された大規模なビデオ会議端末や多地点サーバなどを効率的に管理するためのアプリケーション。

MPM+カード搭載の Polycom RMX 2000 V4.0 は、3月23日からポリコム認定販売代理店より販売開始した。希望小売価格は、873 万円(税別)から。

ポリコムは、いつでも、どこでも、誰にでも簡単に使える高品質なビデオ会議システムを、シンプルな導入・運用・管理とともに、高い安全性、信頼性、拡張性を持つソリューションとして提供する「Polycom VC2」ビジョンを掲げている。今回の Polycom RMX 2000 V4.0 は、このビジョンを実現する最新コンポーネント。包括的なプラットフォームソリューションとし

て、ビデオ会議の管理システムである「Polycom CMA 4000/5000」や「Polycom DMA7000」、またファイアーウォールソリューション「Polycom Video Border Proxy(ポリコム・ボーダー・プロキシー)」、レコーディング・ストリーミングソリューション「Polycom RSS 2000」、ビデオコンテンツ管理の「Media Center 1000(メディアセンタ)」などの製品を提供している。

SOBA プロジェクト、SOBA CITY をデスクトップから利用できる各種ガジェットの提供開始

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、無料のテレビ会議・Web 会議システム「SOBA CITY(ソバシティ)」向けに「SOBA CITY ガジェット」を発表した。(4月2日)

SOBA CITY は、同社が 2006 年 3 月に開始した無料のサービス。多人数で映像と音声、チャット、ホワイトボード、Web ブラウザ、アプリケーション共有機能が提供されており、現在 2 万人近い登録ユーザがある。

SOBA CITY ガジェットは、「Yahoo!ウィジェット」、「Windows Vista ガジェット」、「iGoogle ガジェット」、「Google デスクトップガジェット」の4種類をまとめた総称。パソコンのデスクトップ画面上にあるこれらのガジェットから、SOBA CITY のウェブサイトを経由することなく、デスクトップから簡単に(最短2クリック)、インスタントメッセージ感覚で簡単に SOBA CITY を利用できる。ただし、SOBA CITY の利用には、事前にユーザ登録とクライアントソフトのダウンロード(無料)が必要だ。

SOBA CITY ガジェットで提供される機能は、以下の通り。

(1)オートログイン機能。ログイン名とパスワードを記憶できるため、ログイン画面のチェックボックスにチェックをしておくと、次回からは自動的にログインが出来る。

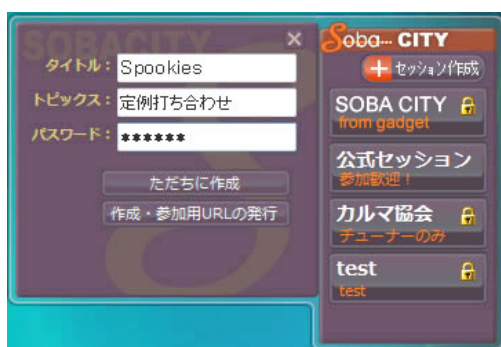
(2)セッション作成。テレビ会議やビデオチャットを行う仮想的なセッション(部屋)を作成・登録(参加用 URL の発行)ができる。また入室パスワードの設定も可能。

(3)セッション一覧の参照。現在開催されているセッション(部屋)の一覧を参照できる。

(4)セッションへの参加。現在開催されているセッション(部屋)への入室が行える。



SOBA CITY ウィジェット for Yahoo!ウィジェット



SOBA CITY ガジェット for Windows Vista



SOBA CITY ガジェット for Google デスクトップ



SOBA CITY ガジェット for iGoogle

SOBA プロジェクトは、2000年に発足した産官学共同プロジェクト「SOBA プロジェクト」を母体とするベンチャー企業で、2005年に設立(京都市)。P2P型テレビ会議システム「SOBA mieruka(有償版)」、「SOBA CITY(無償版)」の他、ビジュアルコミュニケーション用Web API「SOBA Web API」、ライセンス供与を行っている「SOBA フレームワーク 3 商用版」、そして、遠隔対面専用端末「SOBA Terminal」など双方向型ビジュアルコミュニケーション向けのアプリケーションソフトの開発やライセンス販売などを行っている。

*関連記事: Vol.9 No.6 2007/3/15 1p-3p

事業動向-国内

VTV ジャパンとヤマハ、ヤマハの会議用マイクスピーカーの販売で協業

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)とヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、ヤマハの会議用マイクスピーカーの販売で協業することを発表した。(4月6日)

VTV ジャパンは、同社が提供する Vidyo 社(ヴィディオ社)製ビデオ会議システム用の音声器機として、ヤマハの「Projectphone(プロジェクトフォン)」の販売を開始する。

Vidyo 社ビデオ会議システムの特長は、画像圧縮に H.264/SVC を採用しており、通信品質が保証されていない一般 IP 回線でも高品質の映像を提供できることや、PC で利用できるソフトウェア版も提供していることから、専用端末とは違った、会議室間だけでなく、会議室-オフィス間、オフィス-モバイルなど「どこでもいつでも誰ともコミ

コミュニケーション」が実現できるところにある。

それに対し、ヤマハのProjectphoneは、音に関する長年のノウハウとネットワーク技術が活かされている点、また、USBモデルであるため、Vidyo社のビデオ会議システムにUSBポート接続が可能である点、さらに、人数に応じて複数台連結や音声環境を考えたエコーキャンセラーやノイズリダクション機能も搭載している点などがVidyo社のビデオ会議システムに最適であるとVTV ジャパンでは判断した。

発売開始は、4月10日から。価格は、「PJP-100UH」が252,000円(税込み、以下同)、「PJP-50USB」が120,750円、「PJP-25UR」が63,000円。

事業動向-海外

米ライフサイズ社、2008年通期で150%の売上成長率を達成

米ライフサイズ社(LifeSize Communications)の発表(3月24日)によると、2008年後半に記録的な売上を計上し、通期で150%近くの売上成長率を達成した。また、従業員の採用については、製品設計、開発、マーケティング、販売、サポートなどの各部門において積極的に行い、組織の規模も70%以上拡大したという。

同社では、企業や政府機関におけるビデオ・コミュニケーションを利用した出張旅費の削減と生産性向上による業務改善の動きが活発化したことが、世界の全ての地域における売上に大きく貢献したという。

2008年を振り返ると、まず製品としては、4月に低コスト化をすすめた「LifeSize Express with Focus(ライフサイズ・エクスプレス・ウィズ・フォーカス)」を発表。そして10月には、720p60フレーム/秒の他1080p30フレーム/秒にも対応したビデオ会議システム「LifeSize Room 200(ライフサイズ・ルーム 200)」やフルテレプレゼンス・ソリューション「LifeSize Conference 200(ライフサイズ・コンファレンス 200)」を発表し、フルHD化に展開を始めた。また製品の広範囲な導入を目的として、インフラストラクチャー製品と監視機器の強化も行った。

同社製品は、導入経験のない企業から、既に設置済みの

大企業や教育機関まで、幅広い層に採用されており、SDビデオ会議システムからのアップグレードを目指す大手グローバル企業から多くの契約を勝ち取っているという。たとえば、韓国の自動車メーカーである現代自動車では、本社組織であるグローバル・コマンド&コントロール・センターから世界各地の工場まで、グローバルなHDビデオ・ソリューションとしてライフサイズ社のシステムの採用が決まった。また日本では、新潟青陵大学や新潟大学など新潟県内の10教育機関がライフサイズのHDビデオ会議システムを採用し、各校との会議に活用されている。

その他、メディアからの評価としては、TechRepublic誌、INTERNET TELEPHONY誌、Videoconferencing Insight誌、VON Magazine誌、Austin Business Journal誌(本社があるテキサス州オースチン)、印 Smart Techie誌などからアワードを受賞した。

BT グローバル・ビデオ会議サービス、TMCのユニファイド・コミュニケーション・マガジンより2008年度製品賞を受賞

BT ジャパン株式会社(東京都港区)は、英ブリテッシュ・テレコム(BT)のBT グローバル・ビデオ会議サービスが、テクノロジー・マーケティング・コーポレーション(TMC)のユニファイド・コミュニケーション・マガジン(<http://www.uc-mag.com>)より、2008年度製品賞を受賞したと発表。(3月24日)

BT グローバル・ビデオ会議サービスは、20年以上前に設立され、世界55カ国以上に進出。米国、欧州・中東・アフリカ、アジア太平洋地域に本拠地を構える。グローバルに音声会議、ビデオ会議、Web 会議サービスを提供。Cisco Telepresence システムに対応した企業間のテレプレゼンス接続サービスも提供する。TMCでは、BT グローバル・ビデオ会議サービスが、マーケットニーズに真摯に対応し高品質サービスの提供を行っていると評価した。

セミナー・展示会情報

<国内>

ご好評につき今年も開催！

テレビ会議トップ3メーカー集結セミナー（大阪）

日時:5月12日(火)13:30～(受付開始 13:00～)
 会場:大塚商会 ITソリューションセンター(大阪市北区)
 主催:株式会社大塚商会
 協力:ポリコムジャパン株式会社、ソニーマーケティング株式会社、
 日本タンバーク株式会社
 詳細・申込:<http://event.otsuka-shokai.co.jp/09/w0512bb/>

「コスト削減！」が重要課題の今だから...
 テレビ会議でコスト削減、業務効率化の事例を公開！！
 ～web会議の効果的な使い方について～
 日時:5月12日(火) 16:00-17:00、22日(金) 14:00-15:00、26日
 (火) 17:00-18:00

*同一内容。希望日選択。

会場:オンライン(ユーザのパソコンから参加する)
 主催:株式会社ブイキューブ
 詳細・内容:<https://vcube.smartseminar.jp/public/>

これからの新しいビデオコンファレンスを読み解く
 次世代ビデオ会議システムセミナー2
 既存のビデオ会議とはここが違う。導入効果を発揮出来る
 使い方や提案例を紹介

日時:5月19日(火)、22日(金)、26日(火)、29日(金)
 6月10日(水)、16日(火)、19日(金)、26日(金)
 会場:VTV ジャパン 東京・大阪ショールーム
 主催:VTV ジャパン株式会社
 詳細・申込:<http://www.h264svc.net/pressroom/pressroom2.html>

<海外>

Interop Las Vegas 2009

会期:5月17日-5月21日
 会場:アメリカ ラスベガス
 主催: CMP Media LLC
 詳細 <http://www.interop.com/lasvegas/>
 *会議システムメーカーが出展。

Interop Las Vegas 2009 - Conference: Video Conferencing Track

会期:5月17日-5月21日
 会場:アメリカ ラスベガス
 主催: CMP Media LLC
 詳細:
<http://www.interop.com/lasvegas/conference/videoconferencing.php#1242889200>
 *テレビ会議関連セミナートラック。

InfoComm 2009

日時:6月13日-6月19日
 会場:アメリカ フロリダ オーランド
 主催:InfoComm International
 詳細:
<http://www.infocommshow.org/infocomm2009/public/enter.aspx>
 *会議システム関係が多数展示。

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。
 掲載していない記事がありますが、次回以降に掲載させていただきます。
 今後とも宜しくお願い致します。

CNA レポート・ジャパン 代表 橋本 啓介